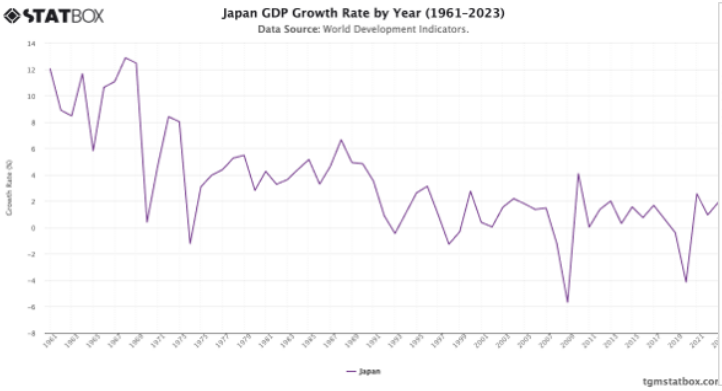
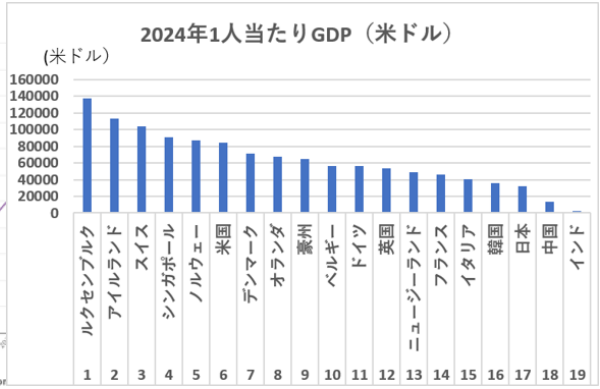
びとうファイナンシャルサービス
月刊ニュースレター
Vol.210
2026年10月1日発行
お客様の人生に豊かさを、
こころに安心とゆとりを。
発行者：びとうファイナンシャルサービス株式会社

ATTENTION

日本全体に、長期低落を挽回する意欲を感じない。





このところ、日本の株式市場は、AI・半導体バブルの恩恵を受け、活況を呈していますが、まだ他力本願で、腰の据わった自律成長とは言えません。相変わらず補助金頼み。消費税を1%にするといっても、2年後には8%に戻すので、ありがたみはつかの間。ガソリンは、なんと1L50円の補助金が付いています。こちらも、なんとなく、店頭のガソリン価格を当たり前と思ってしまい、有難みは感じません。左のグラフにある通り、日本のGDP成長率は、1960年代から長期低落傾向で、反転感は感じません。その状況が、1人当たりGDPの順位にも現れています。今では韓国に抜かれ、OECDの主要国にはすべて後塵を拝しています。2024年は39位。30年前は5位、20年前は18位だったので、長期低落傾向です。また経済成長の重要なエンジンである人口は現在1億2268万人ですが、2040年には1億1284万人、50年には1億469万人、60年には9615万人、現在から22%減と見込まれます。いまでも、地方を見ると、シャッターを閉めている商店は多く、住宅も廃屋が目立ちます。この局面をどう打開するか。それには、国民が意欲をもって取り組めるようにしなければなりません。要はやれば報われる。この経験を実感しなければならないのです。その手ごたえを感じない。どうしてか。既得権益がのうのうとはびこっていて、おいしい栄養を吸い取っているからです。最近も中部電力、福岡県議会のような悪例が出て、米国が取り組む24時間株式取引など、日本は全くやる気がないという状態です。社会全体がよどんでいて「まぁいいや」という空気がまん延する社会になっています。ずるずると落ち込むのは何とか防ぎたいものです。

COLUMN

頻繁売買では資産を築けない賢い投資家の餌食に

株式市場には、本当にいろいろな投資家がいます。企業をじっくり調べて長く持つ「賢い投資家」。ルールに沿って淡々と運用する「賢いシステマティック投資家」。そして、株価の動きに振り回され、上がった下がったと頻繁に売買を繰り返す投資家。私はこれまで、この最後のタイプを批判してきました。なぜなら、こうした投資行動では、長い目で見て資産はほとんど築けないからです。

ところが最近、興味深い研究に触れました。市場が健全に機能するためには、実は「いろいろなタイプの投資家」が必要だというのです。賢い投資家だけしかいなければ、価格はほとんど動かず、流動性もなくなってしまってなかなか売れない。むしろ、頻繁に売買する投資家がいるからこそ、流動性が確保できる（思った通り売れる）。賢い投資家は本来の価値と株価のズレを見つけ、長期的なリターンを得ることができる。市場には、情報を持つ人と持たない人が混ざっているからこそ、価格が動き、取引が成立するというわけです。

ただし、ここが重要です。頻繁に売買する投資家自身は、残念ながら資産を築けません。むしろ、賢い投資家の「餌食」になりやすく、長期的な資産形成から遠ざかってしまう。市場の流動性を支える役割は果たしていても、自分の懐が豊かになるわけではないのです。

市場には多様性が必要。しかし、資産を築く道は「賢い長期投資」しかありません。この点は、改めて強調しておきたいと思います。

MARKET

	（9月末）	（8月末比）
日経平均	66,753.72円	+441.79円 (+0.67%)
NYダウ	50,906.05pt	−2,279.85pt (−4.29%)
米ドル	157.50円	−2.30円 (−1.44%)

私の書棚より

お金持ちはお金に働いてもらう。
貧乏な人はお金のために働く。

お金持ちは怖くても行動する。

貧乏な人は怖くてやめる。

−Secrets of the Millionaire Mind

INFORMATION

利益が高く、投資が大きい会社は“富を生む”―「本当に伸びる会社」

一般的に「設備投資が多い会社は利益が伸びない」と言われます。重厚長大型の企業が巨額の投資をしても収益は上がらず、株価が停滞する例は確かにあります。最近では、AIや半導体で年に1000億ドル（155兆円）～2000億ドル（310兆円）もの巨額投資をする世界的企業にも、「投資過剰では？」という懸念が出ています。

しかし、最新の研究はこの“常識”を覆します。投資が大きいから利益が圧迫される―これは必ずしも正しくないのです。

●「利益が高く、投資も大きい会社」は株価が伸びやすい

Financial Analysts Journal（2026年3Q）に掲載された論文で、企業の「利益の高さ」と「投資の大きさ」を掛け合わせた指標が株価の上昇を強く説明することが示されました。

ポイントはシンプルです。

・利益率が高い会社が、さらに大きく投資している場合 →
将来の利益が伸びやすく、株価も上がりやすい

・利益率が低い会社が、大きく投資している場合 →
投資負担が重く、株価は伸びにくい

つまり、投資の「量」ではなく、**投資が利益につながるかどうか**が重要なのです。

●「利益が高い企業」は利益が続きやすい（持続性）

この研究によると、企業の利益率は非常に持続性が高く、「今年利益が高い会社は来年も高い」傾向があります。これはブランド力、技術力、顧客基盤など、企業の強みが簡単には崩れないためです。一方、投資の大きさは利益ほど持続しません。ある年に大きく投資しても、翌年は減ることがあります。だからこそ**「利益が高い × 投資が大きい」**という組み合わせは希少であり、株式市場では高く評価されるのです。

●「利益が高い × 投資が大きい企業」は“複利で成長”

この研究では、この組み合わせの企業を **HH（High Profitability × High Investment）企業** と呼びます。HH企業は利益を再投資し、さらに利益を生む「複利成長」を実現しているため、株価が長期的に上がりやすいのです。

さらに驚くべきことに**株価の上昇（アルファ）の大部分は、このHH企業が生み出している**と報告されています。つまり、投資家が長期で資産を増やしたいなら、**「利益が高く、投資にも積極的な企業」を選ぶことが極めて重要**です。

●「投資が大きい＝危険」ではない。むしろ選ぶべき企業

AI、半導体、クラウドなど、巨額投資を続ける企業は「投資過剰では？」と批判されがちです。しかし、利益率が高く、投資が利益につながっている企業は、むしろ“富を生む企業”です。研究は明確にこう述べています。

「利益が資本コストを上回るなら、その企業の投資は株主の富を増やす」

つまり、投資が大きい企業を一律に避ける必要はありません。重要なのは **利益率が高いかどうか**です。今回の研究は、投資の“量”ではなく“質”が重要であることを示しています。利益率が高く、投資が利益につながっている企業は、むしろ長期で大きな富を生みます。投資家としては、単に投資額の大きさを恐れるのではなく、「利益率の高さ × 投資の積極性」という組み合わせに注目することが、長期的な資産形成につながるのです。

出典：Profitability Meets Investment：The Wealth Creation Effect in Stock Returns

まかせて安心、資産運用のホームドクター

●大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。

●退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。

●仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。

●銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品を売るのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。

びとうファイナンシャルサービス
代表　尾藤　峰男
公認投資助言者（RIA）

びとうファイナンシャルサービス 公式HP
http://www.bfsc.jp

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！
お申し込みは　http://www.bfsc.jp/mailmagazine/

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役　尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311　**電子メール：info@bfsc.jp**